



ビオトープ・サロン 会員紹介コーナー

記者：編集担当

久しぶりの会員紹介です。今回は、新会員が名乗りを上げてくれました。大学時代から研究熱心でありながらも、バイオリンが特技という・・・今までにない？若手有望株の登場です！！

【自己紹介と目標 酒井孟（準会員）】

皆様，はじめまして．酒井孟（さかいはじめ）と申します．今年（2010年）の3月に徳島大学大学院を修了して，4月から社会人となりました．少し自己紹介をします．

- ・ 生年月日：1984年9月20日
- ・ 出身：京都市
- ・ 出身校：京都私立洛南高校 徳島大学建設工学科  
 徳島大学大学院先端技術科学教育部環境創生工学専攻エコシステム工学コース
- ・ 所属会社：新弘測量設計株式会社
- ・ 現住所：徳島市昭和町8丁目
- ・ 特技：バイオリンを弾くこと（5歳から習っています）
- ・ 所有資格：測量士補，技術士補（建設部門），英検準2級，柔道初段  
 （測量士，技術士，2級ビオトープ施工管理士については現在勉強中です．）

大学時代の研究について，紹介します．卒業論文は「干潟底質に及ぼすヤマトオサガニの生物攪拌の影響について」，修士論文は「底生微細藻類の一次生産活性と種組成に及ぼす貧酸素の影響」という題目で発表を行いました．卒業論文では，吉野川河口干潟，勝浦川河口干潟をフィールドとして，修士論文では兵庫県西宮市にある御前浜（おまえはま）という人工干潟をフィールドとしていました．

この御前浜は，毎年夏になると青潮が発生し，海から硫黄のニオイがします．それに伴って，魚，貝，カニが大量死します．原因は青潮に伴う貧酸素水塊の影響です．御前浜ではアサリが生息していますが，夏には殻が開ききって死んでしまったアサリが数百匹・・・異常な光景でした．その写真を載せておきます．青潮の被害といえば，千葉県など東京湾における漁業に対する被害が有名です．赤潮に比べて，まだまだ知名度の低い青潮ですが，青潮の脅威をもっと知るべきだと思いました．



2008/08/26 撮影

写真 青潮発生により死亡したアサリ

このような日々の研究以外にも，大学・大学院時代の活動として，学会発表や干潟観察会のスタッフしていました．学会は，土木学会四国支部で1回，ペントス学会で2回発表を行い，様々な研究者と意交換したり，アドバイスをもらったりと，とても勉強になりました．また，干潟観察会のスタッフでは，潟に生息する生物と一緒に探したりして，とても楽しく過ごせた思い出があります．学生の頃に，このような経験をする事ができたことを，社会人になった今では，とても幸運に思います．干潟をもっと知りたいと思っていますし，環境や生態学を勉強していく上で，干潟のことだけではなく，山，海，川などより広視野で勉強していく必要があると思っています．

そこで，まだビオトープ管理士の資格を持っていないにもかかわらず，日本ビオトープ管理士会徳島支部に入会しました．また，大学時代に環境や生態学についての研究を行っているうちに，何らかの形で自然環境に係る仕事をしたいと思うようになりました．現在は，主に測量の仕事をしていますが，同会に入会して，自然環境や生態学についての様々な経験や知識を習得し，将来の仕事につなげたいと思っています．

最後に，これからの目標ですが，まずは今年9月26日にある2級ビオトープ施工管理士の試験に合格することです．しっかりと勉強して，一発合格をしたいと思っています！また，技術士（建設部門）の取得も考えています．現在は，実務経験が足りないため，受験資格はありませんが，今から勉強を始めています．資格を取得する過程での勉強において知識を増やし，更にフィールドに行き経験を増やし，少しでも早くお役に立てるよう努力していきたいと思っています．まだまだ，未熟ですが，今後ともご指導，ご鞭撻よろしくお願い致します．

**ピオトープ・セミナー 資格試験に挑戦して基礎知識を修得しよう!**

ピオトープ管理士資格試験過去問題 出展：(財)日本生態系協会主催「ピオトープ管理士セミナー」のテキストより  
**無断転載禁止**：本紙は財団法人日本生態系協会の許可を得て転載しています。 記者：編集担当

**【ピオトープ論：正答・解説は次号で紹介】**

問021：ピオトープの評価に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか選びなさい。

1. ピオトープの価値は、そこに生育・生息している絶滅の危機に瀕している野生生物種の数だけでは判断することは出来ない。
2. ピオトープの価値を評価する場合、時間的代償可能性という観点からの検討も必要である。
3. 周囲の環境状況によって、個々のピオトープの価値が左右される場合がある。
4. ピオトープはタイプによって成立に至るまでの時間が異なる。
5. 代償ミティゲーションが社会的に求められるようになってきたこともあり、今では、ピオトープのもつ全ての価値を数値化することが可能になってきている。

**前号020の解説**

土壌は「物質の交差点」と言われ、生物や有機物・水・空気・岩石の全てを含み、太陽の下で地球上の大気圏・水圏・岩石圏・生物圏のいずれにも交わっており、生態系の交差点とも言えます。家畜の過放牧や過剰伐採により植生が失われると、表土浸食が進行しやがて砂漠化してしまいます。土壌汚染は、かつては農薬汚染が代表的でしたが、近年では化学工場跡地やゴミや焼却灰の埋立地など、化学物質や重金属などの有害物質による汚染が顕在化し、それを解消するためには大きなコストと時間を要します。表土はコンクリートやアスファルトでいったん覆われてしまうと、土壌の持つ生産・分解・養水分の保持機能はいずれも停止し、表土は死んでしまいます。また、雨水は地下に浸透せず地表を伝って低い地域に一気に流れ込み、都市水害の原因になったり、地下水の減少で地盤沈下の原因になったりもします。健全な水循環に悪影響を与えることは言うまでもありません。土壌浸食の原因は、国によっても異なりますが、世界的に見ると、過放牧が第1位で、森林減少、農業活動と続きます。自然の森林や草地では物質循環されますが、収奪的な農業ではいくら化学肥料の補給を続けても表土浸食を補うことはできません。

**最近の受験者は、環境NPO構成員、国・地方公務員、外郭団体や地方自治体職員、企業退職者が増加傾向です。**

**ピオトープ・ナビ Q&A コーナー**

前号からの連載です。ハトについては前号をご覧ください。  
 記者：坪内強、櫻本幸実(会員)

**【Q：さん】**

公園などでのハトやコイへの餌やりはなぜいけないのでしょうか?

**【A：自然保護の第一歩は野生生物に餌を与えないこと!】**

今回はコイの餌やりについてお話しします。  
 ニシキゴイは元々観賞用で公園や屋敷の池、お堀などでは餌やりを楽しむ風習もあります。言わばペットですから、餌を与えてあげないといけません。その場合でも、池の大きさによってコイの数を調整したり、餌の量を決めたり、池の掃除など、きちんとした管理が必要です。餌が足りないと、池の中の他の生きもの(魚や貝や水草)も食べてしまい、最後には生きものがコイだけに水質も一層に悪くさせてしまいます。また、残った餌が腐敗して飼育環境を悪くするといった問題もあります。コイの餌やりは食べっぷりが豪快な事もあって人気がありますが、先に述べたことから、指定された餌以外を禁止しているところも増えています。

コイは、餌を与えることよりも、ため池やダム湖や自然の川に放流することを止めなければいけません。日本ではブラックバスが外来種のシンボルになっていますが、北アメリカでは、日本から持ち込まれたコイが増えすぎて、もともといた生きもの(動植物)を食べてしまいその土地本来の生きもの(動植物)のつながりを壊しています。コイは、植物も食べてしまいますから、ブラックバス以上に厄介な存在となっています。(世界の侵略的外来生物ワースト100の一種)

環境教育と称して、幼い子どもたちを駆り出し、自然にやさしい子に育つと、川に赤いコイを放流させる光景が新聞やテレビなどでよく報道されますが、これはとんでもない自然破壊の行為に他ならない・・・と一言をしっかりと理解する必要があります。最近では「コイヘルペス」の問題で自粛され、抑止効果となっています。

**ピオトープ・ナビ 雑学コーナー**

記者：櫻本幸実(会員)

**【増える都市型生物と自然環境中に増える愛玩動物】**

前号では、ドバトやカラスなどの迷惑動物が都市環境に順応し、一方、自然の川や山では、輸入の愛玩生物の定着により、固有の生態系の破壊の危機を招いていることをご紹介しました。今回はコイですが、同様のことが言えるのではないのでしょうか。

コイは、お堀の水質悪化やボウフラ発生予防(誤解)をはじめ、下水処理水のデモンストレーションに「コイが住めるほどきれいな水」と、処理水を利用した人工の小川や池が造られているのを目にします。しかし、本来、コイは水質汚染に強くBOD値(水の汚れの基準)の高い水域、つまり、一般的には汚れた水域を好み、コンクリートの人工池と清水では餓死してしまいます。

コイは従来、帰化動物とされていましたが、養殖や放流に用いられる体高の高いものは外来で、体高の低いものは在来種として区別すべきとの研究報告がされており、「ノゴイ」として新種記載の必要性も指摘されているようです。(コイも同様に身勝手な人間の被害者です)コイは、川や池の深みを棲み処とし、産卵期に浅瀬にやってきます。湿地の代償であった水田にも用排水路を伝ってやってきます。かつてはフナとともに農村地域の貴重な蛋白源でもあり、ため池からの恵みでした。

**支部活動のお知らせ**

記者：編集担当

**『とくしまの自然と生きもの遍路』**

～環境保護&行政等20団体の活動大展示会～

開催日：9月25日(土)、26日(日)

会場：文化の森21世紀館(多目的活動室)

生物多様性とは何か。COP10 プレイメントとして、環境保全の諸団体が活動展示を行います。22団体が参加予定です。もちろん、当会も展示します。皆様の参加お待ちしております。

**編集後記**

ピオトープに関するお役立ち情報のもとより、皆様の活動やお仕事、日常生活を通じて見たり感じたりしたこと、身近な自然の春夏秋冬や喜怒哀楽のご寄稿をお待ちしております。ふるってご参加ください! 編集：河野登子